

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
診療局長補佐兼中央手術室長 兼麻酔科主任部長	小林 俊司
部 長	足立 匡司
医 長	米本 紀子
医 長	井戸 和己
医 長	神移 佳
医 長	伊原 正幸
医 長	森本 正昭
副医長	早坂 朋彦
副医長	和田 努
副医長	鶴野 広大
非常勤医員	光明寺 雄大 (9月退職)
非常勤医員	辻川 麻実
非常勤医員	高橋 未奈
非常勤医員	沖田 将慶

—概要—

当院麻酔科は、かつては大学医局からの医師派遣を受けていた。しかし、医師不足のあおりを受け、2008年度初めに常勤麻酔科医がゼロとなり、以後公募に切り替え現在に至っている。2008年9月、小林俊司医師が公募による初の常勤麻酔科医として赴任し、以後少しずつ常勤医が増加した。2020年度は常勤医10名、後期研修医4名であった。常勤医のうち9名は、麻酔科標榜医・日本麻酔科学会専門医もしくは指導医であり、1名が麻酔科標榜医である。

2020年度の年間総麻酔管理件数(アンギオ室含む)は2,557件。その中で全身麻酔は2,265件であった。当麻酔科は原則として、依頼のあった手術麻酔は予定、緊急の全てを受け入れている。また手術室外でも、血管造影室で行う、脳神経外科の脳動脈瘤に対するコイル塞栓術や、口腔外科の動注管設置術などの麻酔を行っている。2013年度には当院手術室において、泉州地域で初の脳死臓器提供も行われ、麻酔科はその全身管理に携わった。

2020年1月頃から世界的に流行したCOVID-19は、当院麻酔科、手術室にも大きな影響を与えた。院内他部署とも連携し、手術患者のスクリーニング、COVID-19患者への手術対応、手術室スタッフの個人防護具(PPE)、手術室の選定や清掃、麻酔器具、手術器具等の滅菌方法などについて議論検討し、手術室マニュアルを作成した。特に気道からの飛沫感染が危険であるとされたため、全身麻酔における気管挿管、抜管時に用いるアクリルボックスを制作した。実際には疑いを含め8症例を、COVID-19扱いとして取り扱ったが、医療従事者からの感染者を出さなかった。中でも2例の帝王切開は、感染症センターと母子医療センターが共

存する当院ならではの症例である。また麻酔科医も院内の方針に従い、COVID-19患者対応の休日日直や、新しく設置された「コロナ特命診療チーム」、「コロナワクチン診療チーム」などに対応した。

研修医、若手医師の教育に重点を置くことや、救急救命士の挿管実習に貢献することは、2008年度からの目標であったが、2019年度には、当院2年目研修医2名、1年目研修医9名、救急救命士の挿管実習生6名、挿管実習再教育者8名を受け入れることができた。

麻酔科では毎週、論文抄読会、および問題症例検討会を開催し、最新の医学情報に接するとともに、各自が勉強を怠らないよう努めている。また後期研修医を中心として、常に臨床研究を行うよう指導するとともに、麻酔の主要学会では、必ず演題を出せるようにしている。2015年度より、日本麻酔科学会の新しい専門医制度がスタートしたが、当院は基幹施設としてプログラムを挙げている。新専門医制度は近年、専門医機構の専門医制度としても認定された。当科は引き続き基幹病院としてプログラムを持てるよう、努めていく所存である。

また、麻酔科医は次のような、院内の様々な診療部門、ケアチームに参加している。

＝ペインクリニック＝

ペインクリニックでは麻酔の疼痛管理を応用し、様々な難治性疼痛、慢性痛を治療している。対象疾患が、脳卒中後痛、遷延する術後痛、複合性局所疼痛症候群(CRPS)、三叉神経痛、四肢血行障害性疼痛(レイノー症候群、ASOなど)がん性痛なども含まれる。外来診療は日本ペインクリニック学会専門医2名を中心に行い、各種末梢神経に対しエコーガイドまたは透視下の神経ブロック、入院による持続脊髄鎮痛法、脊髄刺激電極植え込みなどを行っている。非がん性慢性痛患者の治療には、近隣リハビリテーション医院や精神科・心療内科とも提携し、難治痛患者のQOLの改善を目指す。2016年4月より、当院は日本ペインクリニック学会の「指定研修施設」に認定されることになった。複数名のペインクリニック専門医を配置し、より高いレベルでの疼痛治療を目指している。

がん性痛に関しては、院内緩和ケアチームに参加し、また地域医療連携室を通じ院内外から侵襲的鎮痛治療の必要な紹介患者を受け入れている。腹部内臓痛のがん患者にはCTガイドの腹腔神経叢ブロックその他内臓神経ブロッ

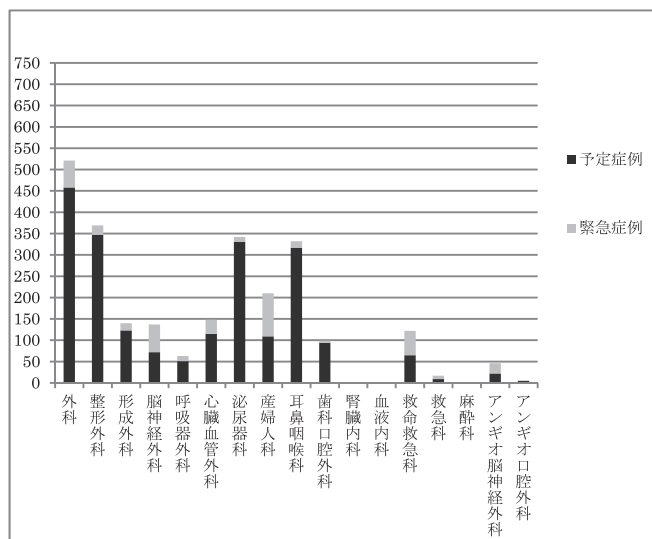
ク、また他神経破壊処置も行う。

(米本紀子医長、神移佳医長)

—実績—

	外科	整形外科	形成外科	脳神経外科	呼吸器外科	心臓血管外科	泌尿器科	産婦人科	耳鼻咽喉科
予定症例	458	347	123	72	51	115	331	109	317
緊急症例	63	22	17	65	12	33	11	101	15
計	521	369	140	137	63	148	342	210	332

口腔外科	腎臓内科	血液内科	救命救急科	救急科	麻酔科	アンギオ脳神経外科	アンギオ口腔外科	合計
94	1	2	65	9	1	22	5	2,122
5	1	0	57	8	1	24	0	435
99	2	2	122	17	2	46	5	2,557



—今年度の成果と反省点—

2020年度はCOVID-19患者への対応と、通常手術のバランスを取りながら運営する必要があった。COVID-19患者を断らずに全て受け入れ、それに伴う医療従事者への感染も引き起こさなかったことは、大きな成果であると考えている。また緊急を要する手術については、普段通りの受け入れをすることができた。一方COVID-19対応に追われて、研究業務などはアクティビティの低い1年となってしまった。

—来年度への抱負—

2020年度の当院麻酔科は、COVID-19患者に対応しつつも、通常手術、とりわけ緊急手術を落とすことなく受け入れてきた。2021年度も引き続き、COVID-19患者の手術と、通常手術の両者を受け入れていく必要がありそうである。どちらも社会から期待される重要な手術であり、バランスよく受け入れていく所存である。一方で麻酔科医が疲弊しないよう、ワークライフバランスに注意しながら、運営していきたい。

私たち麻酔科医が非常に働きやすい環境、雰囲気を実現しており、さまざまな医療スタッフや事務の方々、市の関係者の皆さんには、心から感謝したい。2021年度以降は、基本である手術麻酔の質と量を高い水準で維持するとともに、病院の運営方針に従い、必要があれば更に広範囲の分野で、麻酔科の職責を果たしていく所存である。